



## 教員の考える「いい授業」 学生の考える「いい授業」

2006年11月

法政大学 FD 推進センター

### 1. はじめに

本学教員を対象にした第1回 FD 研修会は、法政大学九段校舎で、2006年8月4日(金)の10時から17時半まで開催されました。教員7名と学生5名が参加し、教員グループ、学生グループが考える「いい授業」をポスターで発表した後、全員でディスカッションを行ないました。

「いい授業」というのは、個人によってイメージや基準が異なるものです。同一の授業であっても、受講した学生によって印象や評価は異なります。この研修会の目的は、いい授業を定義することではなく、個人の経験から出発して各人が考える「いい授業」を議論することにあります。教員と学生が授業について率直に議論し、有意義な研修会になりました。

なお、巻末には、授業参観後に実施したアンケートの一部をご本人の同意を得て掲載しました。ご協力いただいた先生方と学生諸君には、この場を借りて感謝いたします。

### 2. 教員が考えるいい授業

#### I. 目標を設定する

- ・ 学部(学科)の理念を反映した目標設定
- ・ カリキュラム上の位置づけに見合った目標設定
- ・ 学生の水準に合っている
- ・ 受講の前提条件が明示されている
- ・ 論理的思考能力を持った人材を育てる
- ・ 自主性を持った人材を育てる
- ・ 批判的な物の見方ができる人材を育てる
- ・ 社会の要請を意識した人材を育てる

#### II. 目標を達成するために(手段)

##### A. 動機づけ

- ・ 学生の興味・関心をひく
- ・ 効果的な雑談をする(一本調子にならないように)
- ・ 意外性のある授業 意外な面を気づかせる
- ・ 教員の人間性を出す

##### B. わかりやすいこと

- ・ 具体的なものから抽象的なものへ
- ・ 学生の予備知識を活用する
- ・ 学生の理解度の確認と教え方の修正(フィードバック)
- ・ 学生の質問に答える

##### C. 学生とのコミュニケーションを図る

### 3. 学生が考えるいい授業

#### I. 進め方

計画性 …… 事前に十分な授業準備がされている。(教材や配布資料)

環境作り …… 一方通行でなく学生が授業に参加できるか？ 質問のできる雰囲気か？

コミュニケーション …… アンケートなどで学生の予備知識 関心を知る。

#### II. 話し方

話術 …… 説明力、適度なスピードと声の大きさ

雑談 …… 雑談を交えながら授業にメリハリをつける。雑談は授業内容に絡む話題を。

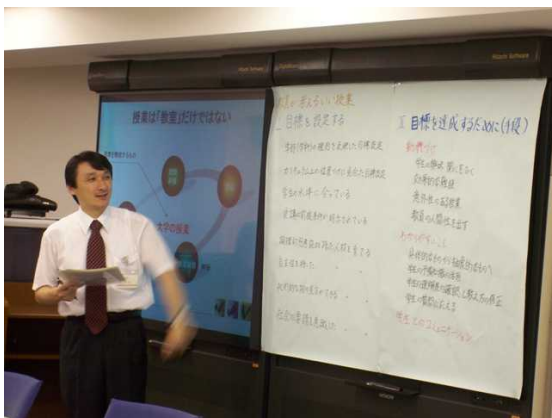
#### III. 評価

課題(レポート) …… (可能ならば添削して)返却。問題点や弱点の指摘があれば、  
勉強するよい機会になる。

試験 …… 授業で扱った内容を出題する。

#### その他

- ・板書以外の教材提示も活用する(PowerPoint、書画カメラ、映像など)
- ・学生の名前を覚えて(特にクラス授業)
- ・学生に質問するときは、考える時間を与える
- ・服装にも工夫を(学生が親しみを感じるように)



「いい授業」の発表風景 (8月4日)

### 4. 全体討議

ディスカッションの内容をいくつかの項目に分けてまとめました。囲み記事もディスカッション際に出た話題です。以下の「教員」「学生」は、教員・学生一般ではなく、ディスカッションに参加した教員、学生とご理解下さい。

## 科目の履修について

カリキュラム上は、基礎から専門分野に進むように科目配置がされています。

しかし、学生は科目間のつながりがよくわからないため、科目選択で迷うことが多いようです。しかも履修に際しては、まず進級・卒業のための単位を満たす必要があり、次に時間割の都合もあって、必ずしも系統立った履修に結びついていないようです。その結果、基礎から応用に進んでいるという実感が持てない学生もいます。

基礎から応用に積み上げていくためには、科目間の連携が欠かせません。また、学生に対する履修指導も必要なことがわかりました。

- ・教員間のコミュニケーションを密にして、科目間の連携や科目の学習目標を決める必要がある。
- ・オリエンテーションだけでは不十分で、特に1, 2年生向けのくわしい履修指導があったほうがよい。

## 今日の授業内容を示す

学生は90分授業を長いと感じることもあれば、短いと感じる場合もあります。一般に講義科目は長く感じているようです。「今、授業がどのあたりまで進んだのかわからないと、集中が途切れる」と言う学生の発言に他の学生もうなづいていました。逆に、その日授業で扱う内容をきちんと学生に示す授業は、集中しやすいそうです。「本日のメニュー」と題して、授業で扱う項目を箇条書きにして配る先生や、黒板の端にその日やるべきことを書き出しておいて説明が終わる度に消していく先生の話が出ました。授業の見取図がわかると、要点ごとに学生の集中力も高まると言えます。

「つかみ」「本論」「まとめ」- 三部構成で授業を組み立てる

一つのやり方として、授業を三部構成にする方法があります。「つかみ」では、前回の授業との関連、その日の授業の予告をします。「本論」は授業の本体。「まとめ」で復習をして、次回までの課題を出します。

## 板書、PowerPoint、配布プリント

学生は、PowerPoint等パソコンを使った教材提示を必ずしも望んでいないようです。板書はノートを取るのにちょうどよい速さで、PowerPointよりも好感を持つ学生もいます。逆にPowerPointだけでプリントのない講義は、学生には淡白で単調な印象を与えるようです。板書、PC、プリントのそれぞれの特性を生かして使うことが教員には求められています。学生は話を聞きながらノートをとる経験をしていないので、教員が「社会では必要な技能」と位置づけて指導することも必要です。

- ・「たまに思い出したように単語だけを板書する先生がいて、うまくノートが取れない」
- ・「PowerPointは見栄えはよいが、スライドの量が多すぎたり、字や図表が細かくてわからないときがある」
- ・「プリントが資料としてしっかりできていて、PowerPointで視覚的に補う授業はわかりやすい」
- ・「プリント以外に毎回クイズや計算など、授業に出た人への”特典”があって、とてもためになった。また授業に出ようという気になった」
- ・「授業に出てくる用語解説を事前に配ってくれて、講義の理解も進み、内容に興味を持った」

## 先生には、授業でも授業外でも、もっと私に関わってほしい

学生は、個人的にもっと教員と言葉を交わしたいと望んでいます。単位を取るだけでなく、学生は大学での勉強の仕方についても助言をしてほしいと思っています。しかし、高校までと比べると、大学教員に対して心理的に大きな距離があります。したがって、些細なことでも教員に個人的に声をかけられると、学生はうれしく思うようです。また、教員の人間的側面にも学生は関心を持っています。先生はどのような人なのか、どういう経緯で大学の先生になったのか、学問のどこに魅力を感じているのかといったことがそれにあたります。

- ・「先生には、もっと勉強方法についてアドバイスがほしい」
- ・「クラス授業や少人数授業では、名前を覚えてほしい」
- ・「卒論指導は別にして、先生と個人的に話す機会がほとんどない」
- ・「同じ研究を続けていて飽きることはないんですか？」
- ・「学生のほうからも積極的に話しかけてほしいと思います」(教員)

「先生、質問があります」

授業が終了してすぐ退室している教員は、学生とのコミュニケーションのきっかけを失っているかもしれません。教員の中には、授業を少し早めに終え、質問の時間を設けている先生もいます。また、毎回授業の最後にコメントを書かせ、次の授業で回答している先生もいます。

特に2時限終了後は、学生も昼食をとらなければならないので、なかなか質問しようという気にはならないようです。「質問があれば来なさい」と待っているのではなく、教員が少し工夫するだけで、学生とのコミュニケーションが図れます。

参考：「学生の求める授業改善」

1. 教員が学生と授業外でも、コミュニケーションをとる
2. 討論・プレゼンを含めた学生参加型の授業にする
3. 勉学が大切であることを学生に気づかせる努力を教員がする
4. 私語などを教員が注意し、授業環境を整える

河地和子：『自信力が学生を変える 大学生意識調査からの提言』(平凡社新書 2005年)より



【参考資料】 授業参観後のアンケートより  
「授業を参観して、どういう点が参考になりましたか？」

2006 年前期に授業を参観された先生方が、参観後のアンケートに回答された記述の一部をご紹介します。授業の進め方や雰囲気は、授業を組み立てるうえで参考になるものです。なお、この転載にあたっては書かれた本人の同意を得ています。また、固有名詞や科目名は省略し、表現も統一を図りました。見出しは、編集の際につけました。

### 外国語科目

- ・先生のクラスの雰囲気作りのうまさ。英語学習の楽しさが先生の熱意と共に教室中に満ち溢れている。学生は英語のシャワーを 90 分間浴び続けるので、ヒアリングにも最適。
- ・ビデオを見せるだけでなく、ビデオに出てくるキーワードを使って学生に文章を考えさせ、提出後、再び授業で取り上げている。英語の音読。楽しい授業の雰囲気作り。
- ・教員が英語で自然なりアクションをしながら会話練習をさせているのが、とても参考になった。
- ・音楽を話題にしての会話練習の展開が興味深かった。学生も親しみをもって学んでいるようだ。
- ・授業中、学生にこれだけ中国語を聞かせ、しゃべらせる授業を見たことがない。しかも、授業の組み立てがうまく、メリハリがあるので、学生も疲れないでついてきている。
- ・和仏作文の授業であったが、作文能力は会話・表現力につながるということを、改めて認識した。フランス語とフランス文化、そして、日本文化との比較の説明が興味深かった。
- ・限られた時間に、多くのことを効果的に教えていた。学生とのコミュニケーションがスムーズだった。(フランス語)
- ・授業の進め方が参考になった。数字の暗記にゲームを活用していた。授業の最後に、授業記録を書かせていた点も参考になった。(ドイツ語)
- ・分かりやすく明快な進行。高校の英語のように、ロシア語文の復唱がリズムカルで楽しく、効果的だと思った。

### 講義科目

#### 授業環境を整える

- ・授業開始 5 分前には教室に来ていて、始業ベルと同時に授業開始していた。これにより遅刻者を抑制することが可能になる。遅刻者は後ろのドアから入室するルールになっていて、本当に授業に集中したい前方の学生にとってはよい環境となっている。
- ・授業開始 20 分を経過したら入室を禁じており、時刻通りに教室に来ている学生にとって、遅刻者による迷惑は抑制されていた。授業環境を良好に保つ努力に関しては、教員はもっと工夫すべきだと思った。

#### 編集したビデオ教材を使う

- ・入念に編集されたビデオ教材。ビデオを長時間流しっぱなしにするのではなく、要所要所が的確に編集されていて、「視聴覚教材」を適切に活用するお手本のような授業であった。編集にかなり時間をかけるそうである。ビデオ教材を提示する前に、受講生に「見るべきポイント」を示しておき、焦点化させる。見終わった後にも、ビデオ内容を振り返りつつ、授業本体の中に適切に位置づけることを怠らない。授業にきちんと有機的に組み込まれている。
- ・教員が映像をきちんと編集して授業に臨んでいた。

#### 配布プリント(レジュメ)

- ・簡略で効果的なハンドアウト。その日の授業トピックが示されていて、授業の展開が把握しやすい。初めて聞く専門用語も、プリントされているので迷うことがない。
- ・配付プリント（レジュメ）が非常に丁寧に作成されていて、これならば受講生に「先生が熱心に授業の準備をしている」と受け止められるだろうと感じられた。授業内容の要点が端的にまとめられており、要所所で具体例（回答例など）が挙げられているので、授業後に学生が復習する際にも有効活用できる。参考文献も挙げられているので、より発展的な学習をしたいという意欲ある学生には参考になるであろう。
- ・授業プリントには、表面ではテストの形式解説と授業の導入について取り上げられており、裏面には、教科書の記述内容が端的にまとめられていて、授業後に学生が復習する際にも有効活用できるものになっていた。後で聞いた話では、欠席者でも自習できるような配慮とのこと。試験形式の概要の説明では、試験での出題意図の読み取り方、学生が陥りがちなポイントなどを事前に解説していた。実は「(問題文の)読解」の授業にもなっていた。同時に、大学教員としてのポリシー（なぜレポートにしないのか）や成績評価上の責任についても明示されていたので、学生も納得した上で成績評価を受けることができると思った。

#### 授業の見出しを板書する

- ・配付されているプリントに十分な情報が載っているため、板書は不要かとも思われた。だが、授業開始時に「授業のタイトル」を大きく書き、また、授業の展開ごとにプリント上の「見出し」を随時書かれていた。「今、どこの部分を説明しているのか」を学生に意識させ、「迷子」にさせないという効果がある。

#### 学生とやりとりしながら授業を展開する

- ・学生にたくさんの質問を投げかけ、当てて回答を求めるといった形で、一方通行の情報伝達で終わらないように工夫されていた。授業中、ずっと教壇に立っているのではなく、適宜、机間循環していた。学生を当てることと相乗効果を上げている。
- ・授業終了後に学生に記入を求めている感想についても、次の授業の冒頭で回答していた。先生がきちんと感想を読んでいることが学生に伝わり、学生も真剣に感想を書くことにつながる。

#### ゆっくり話す

- ・話し方が実にゆっくりで、理解しやすい。学生に話しかけながら進む。内容は専門的で高度であるが、それをわかりやすく伝えていた。

#### 授業内容を欲張らない

- ・授業だけで理解できるように工夫されている。授業中に数学の演習を行うことで理解を深めさせている。また、すぐに解答を示している。沢山の内容を教えようと欲張っていない。

#### 内容があり、学生を飽きさせない講義

- ・授業の組み立て方（構成）がよい。分かりやすく楽しく、明快な進行である。緊張感もあり、とても楽しい雰囲気、内容は高度ながら、講師の人柄と話術が相まって、学生の反応（答えや笑い）が大変良い。詳細な英語版の講義レジュメがあらかじめ配布されており、予習復習に効果的である。概論としても専門としても、濃い内容。学びがいがあり、大人数の学生全員が、たいへん熱心に聴講していた。視聴覚教材も吟味され、効果的に使用されていた。メリハリが効き、学生を飽きさせない。

本報告に関するお問い合わせやご意見は、法政大学 FD 推進センターまでお寄せ下さい。

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1 TEL: 03-3264-4285 / 9929 FAX: 03-3264-4123

E-メール: fd-jimu@hosei.ac.jp ホームページ URL: <http://www.hosei.ac.jp/fd/>